

審査対象事業一覧(総務文教分科会)

No.	重点	事業名	款	項	目	担当課	ページ
1		市役所本庁舎耐震改修事業(耐震対策)	2	1	29	総務課	1~3
2		市役所本庁舎耐震改修事業(老朽化対策)	2	1	29	総務課	
3		市役所本庁舎耐震改修事業(防災対策)	2	1	29	総務課	
4		FM波によるJ-ALERT情報伝達事業	2	1	14	総務課	4~5
5		災害対策本部等強化事業	2	1	14	総務課	6~7
6		中山間地域づくり推進事業	2	1	1	地域活性化室	8~13
7		移住就業・創業支援事業	2	1	9	シティセールス課	14~15
8	③	ハロウィンイベント実施事業	2	1	10	シティセールス課	16~27
9	③	観光プロモーション事業	2	1	10	シティセールス課	28~30
10	②	学校施設整備計画(長寿命化計画)策定事業	10	2・3	3	教育総務課	31~31
11	②	学校司書配置事業	10	1	2	学校教育課	32~33
12	②	学校業務支援員配置事業	10	1	2	学校教育課	34~36
13	②	スクールアドバイザー配置事業	10	1	3	学校教育課	37~41
14		ふるさと山陽小野田応援事業(ふるさと納税返礼品送付)	2	1	10	シティセールス課	42~45

審査対象事業一覧(民生福祉分科会)

No.	重点	事業名	款	項	目	担当課	ページ
15		体育施設維持整備事業	2	1	27	文化スポーツ推進課	46~49
16	②	子育て総合支援センター管理・運営事業(子育て総合支援センター事業)	3	2	8	子育て支援課	50~53
17	②	山陽地区公立保育所整備事業	3	2	4	子育て支援課	54~55
18	②	公立保育所看護師配置事業	3	2	2	子育て支援課	56~56
19	②	放課後児童対策事業(放課後児童クラブ)	3	2	6	子育て支援課	57~58
20		成人健康診査事業	4	1	1・2	健康増進課	59~64
21		急患診療事業	4	1	1	健康増進課	65~65
22		スマイルエイジングプロジェクト	4	1	1	健康増進課	66~66
23		地域生活支援拠点整備事業	3	1	2	障害福祉課	67~68
24		特定空家等除却事業	2	1	1	生活安全課	69~71
25		空家等の適正管理の補助	2	1	1	生活安全課	72~79
26		証明書コンビニ交付事業	2	3	1	市民課	80~84

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 総務課 庁舎耐震対策室 No 1 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2	市民生活・地域づくり・環境・防災	9	防災体制の充実	1	防災対策等の充実
事業概要	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
	防災体制整備事業			市役所本庁舎耐震改修事業(耐震対策)		政策的
本庁舎本館は昭和38年竣工。平成26年度に耐震2次診断を実施し、その結果を受け、庁内プロジェクトで協議。現庁舎を今後20年程度使用、耐震補強工事を実施することとした。平成30年度には工事に必要な設計等の業務委託を行い、続いてR1～R2年度で工事を施工する。				対象	市役所本庁舎	
				手段	本庁舎耐震化に係る設計等を行い、工事を施工する。	
				意図	防災拠点としての機能強化を図るとともに、行政機能を確保する。	

事業期間	H28以前	年度	～	R2	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)			
				測量調査委託料	2,910千円	耐震補強工事費	186,594千円	耐震補強工事費	285,365千円	
				地質調査委託料	9,695千円	確認申請等手数料	1,239千円	完了検査等手数料	1,000千円	
				実施設計委託料	10,305千円	工事監理委託料	1,613千円	工事監理委託料	3,801千円	
				樹木伐採委託料	7,286千円	消耗品費	91千円	消耗品費	100千円	
				評価委員会手数料	432千円	実施設計調整業務	918千円			
				消耗品費	80千円	環境整備等委託料	94千円			
合計				30,708千円		190,549千円		290,266千円		
財源内訳	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債		100%		25,800千円	100%	188,900千円	100%	288,500千円	
	その他									
一般財源				4,908千円		1,649千円		1,766千円		
合計				30,708千円		190,549千円		290,266千円		
人工数	人件費	0.00	千円	0.60	3,467千円	2.80	15,082千円			
総経費				34,175千円		205,631千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H29	H30	R1	R2
1	進捗状況	活動		実施設計等	工事
				一式	進捗率
			100.0%	7.7%	
2					
3					

成果	10月、建築主体工事・機械設備工事、電気設備工事及び工事監理業務委託の入札が成立、10月臨時会において請負契約の締結について議決され、工事に着手した。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	建築確認申請を7月に提出したものの、確認済証が交付されたのは12月。議決後も暫く工事で着手に至らず、工程に影響が出た。設計の精査とともに民間審査機関への申請等、事務手続きについて見直す。				
目標達成度	B	令和3年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 総務課 庁舎耐震対策室 No. 2 -

事業体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)		
	2	市民生活・地域づくり・環境・防災	9	防災体制の充実	1	防災対策等の充実	
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分	
防災体制整備事業			市役所本庁舎耐震改修事業(老朽化対策)		政策的		
事業概要	本庁舎本館は昭和38年竣工であり、老朽化が顕著となっている。庁内プロジェクトでの協議を経て、現庁舎を今後20年程度使用することとした。29年度は外壁劣化調査及び老朽化等調査を実施。その結果を踏まえ、耐震補強工事とともに、老朽化対策工事を施工する。					対象	市役所本庁舎
						手段	本庁舎老朽化対策に係る設計等を行い、工事を施工する。
						意図	防災拠点としての機能強化を図るとともに、行政機能を確保する。

事業期間	H28以前	年度 ~	R2	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)		
	調査委託料	8,100千円			老朽化対策工事費	103,083千円	老朽化対策工事費	169,218千円	
					工事監理委託料	3,227千円	工事監理委託料	7,602千円	
					実施設計業務委託料	9,072千円	備品購入費	18,480千円	
							PCB調査委託料等	1,700千円	
合計		8,100千円				115,382千円		197,000千円	
財源内訳	国庫支出金								
	県支出金				75%		81,300千円		75%
	地方債								
	その他								
一般財源	8,100千円					34,082千円		51,500千円	
合計		8,100千円				115,382千円		197,000千円	
人工数(人件費)	0.60	3,501千円	0.45	2,600千円	0.50	2,888千円			
総経費		11,601千円				118,270千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H29	H30	R1	R2
1	進捗状況	活動	老朽化・外壁調査	実施設計	工事	工事
			調査終了	一式	進捗率	
			100.0%	60.0%	7.7%	
2						
3						

成果	10月、建築主体工事・機械設備工事、電気設備工事及び工事監理業務委託の入札が成立、10月臨時会において請負契約の締結について議決され、工事に着手した。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	建築確認申請を7月に提出したものの、確認済証が交付されたのは12月。議決後も暫く工事着手に至らず、工程に影響が出た。設計の精査とともに民間審査機関への申請等、事務手続きについて見直す。				
目標達成度	B	令和3年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係)	総務課	庁舎耐震対策室	No	3	-
------------	-----	---------	----	---	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2 市民生活・地域づくり・環境・防災		9 防災体制の充実		1 防災対策等の充実	
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	防災体制整備事業			市役所本庁舎耐震改修事業(防災対策)		政策的
	本庁舎別棟は昭和38年竣工。平成26年度に耐震2次診断を実施し、その結果を受け、庁内プロジェクトでの協議を経て、解体することに決定した。別棟の代替を建設し、食堂や売店を移設するほか、防災・情報セキュリティに係る部門や設備を集約することにより機能強化を図るとともに、津波高潮対策として機能の確保を図るもの。					対象 市役所別棟 手段 別棟建築に係る実施設計を行い、工事を施工する。 意図 防災・情報セキュリティ拠点としての機能強化を図るとともに、行政機能を確保する。

事業期間	H30 年度	~	R2 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)		
支出内訳				建築実施設計委託料	9,936千円	車庫解体工事費	7,025千円	別棟建設工事費	247,467千円
				解体実施設計委託料	1,335千円	別棟建設工事費	175,859千円	受電施設等工事費	89,000千円
						受電設備等実施設計委託料	5,280千円	工事監理委託料	2,497千円
						受電設備等工事費	38,200千円	備品購入費	7,231千円
							工事監理委託料	1,060千円	
	合計					11,271千円		227,424千円	346,195千円
財源内訳	国庫支出金								
	県支出金								
	地方債			100%・75%	8,500千円	100%・75%	187,500千円	100%・75%	279,800千円
	その他								
	一般財源				2,771千円		39,924千円		66,395千円
合計					11,271千円		227,424千円	346,195千円	
人工数	人件費	0.00	千円	0.45	2,600千円	0.50	2,888千円		
総経費					13,871千円		230,312千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H29	H30	R1	R2
1 進捗状況	活動			実施設計	工事	工事
				一式	進捗率	
				100.0%	7.7%	
2						
3						

成果	10月、建築主体工事・機械設備工事、電気設備工事及び工事監理業務委託の入札が成立、10月臨時会において請負契約の締結について議決され、工事に着手した。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	建築確認申請を7月に提出したものの、確認済証が交付されたのは12月。議決後も暫く工事着手に至らず、工程に影響が出た。設計の精査とともに民間審査機関への申請等、事務手続きについて見直す。				
目標達成度	B	令和3年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係)	総務課	危機管理室	No	4	-
------------	-----	-------	----	---	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2	市民生活・地域づくり・環境・防災	9	防災体制の充実	1	防災対策等の充実
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	防災体制整備事業			FM波によるJ-ALERT(全国瞬時警報システム)情報伝達事業	政策的	
	防災ラジオは、避難勧告等の発令をした場合に、必要に応じ、ラジオを自動で立ち上げ緊急放送を行っているが、J-ALERT(全国瞬時警報システム:緊急地震速報、弾道ミサイル情報など、対処に時間的余裕のない情報を国から送信し、機器類を自動起動することにより、市民に緊急情報を瞬時に伝達するシステム)とは連動していない。特に緊急地震速報を放送すべきとの意見が多く、J-ALERTと連動したシステムの構築を図る。				対象	市民、事業所、自治会、自主防災組織、災害時要援護者関連施設
					手段	J-ALERT(全国瞬時警報連携システム)と防災ラジオ起動装置との連動、既存放送設備
				意図	市への災害時の情報発信手段の更なる多様化を図る。	

事業期間	R1 年度	～	R4以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)	
					調査委託料	233千円	機械器具費	16,399千円
							VPN利用料	205千円
合計						233千円		16,604千円
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債						100%	16,300千円
	その他							
	一般財源						233千円	304千円
合計						233千円		16,604千円
人工数	人件費				0.10	578千円		
総経費						811千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H29	H30	R1	R2
1	J-ALERT(全国瞬時警報システム)・防災ラジオ連携	活動			1回	1回
					1回	
					100.0%	
2	既存放送設備連携	活動			調査委託	33か所
					調査委託実施	
					100.0%	
3						

成果	防災ラジオと、J-ALERT(全国瞬時警報システム:緊急地震速報、弾道ミサイル情報など、対処に時間的余裕のない情報を国から送信し、機器類を自動起動することにより、市民に緊急情報を瞬時に伝達するシステム)との連動について連携可能であることが確認できた。					
令和3年度に向けた課題及び改善策	令和2年度の整備後、各関係機関が本事業への連携ができるように進めていく。また、情報発信手段の更なる多様化を図る。					
目標達成度	A	令和3年度に向けた方向性				
		成果	現状維持	コスト	現状維持	⑤
特記事項						

放送設備連携実施施設一覧

学校名	
1	有帆小学校
2	高千帆小学校
3	高泊小学校
4	小野田小学校
5	須恵小学校
6	赤崎小学校
7	松原分校
8	本山小学校
9	厚狭小学校
10	厚陽小学校
11	出合小学校
12	津布田小学校
13	高千帆中学校
14	小野田中学校
15	竜王中学校
16	厚狭中学校
17	厚陽中学校
18	埴生小・中学校

保育園名	
19	焼野保育園
20	須恵保育園
21	さくら保育園
22	伸宏保育園
23	姫井保育園
24	石井手保育園
25	真珠保育園
26	貞源寺保育園
27	貞源寺第二保育園
28	厚陽保育園

幼稚園名	
29	高千帆小百合幼稚園
30	真珠幼稚園(保育時間内に屋内のみ)
31	埴生幼稚園

施設名	
32	商工センター(屋外)
33	きらら交流館(屋外)

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係)	総務課	危機管理室	No	5	-
------------	-----	-------	----	---	---

事業体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	2 市民生活・地域づくり・環境・防災	9 防災体制の充実	1 防災対策等の充実
事業概要	実施計画名	重点P	事務事業名
	防災体制整備事業		災害対策本部等強化事業
	市の地域並びに市民の生命、身体及び財産を災害から守ることは市の責務である。災害に対し、迅速かつ的確に対応するためには、水防本部体制や災害対策本部体制時の組織的活動、情報収集・伝達強化や情報の共有が必要不可欠である。		政策的
	対象	市	
	手段	携帯電話をスマートフォンに更新し、広報班等からの現地情報を的確に得る。	
	意図	災害時の情報を迅速かつ的確に収集・伝達することにより、災害対策本部での早期の状況判断等を行う。	


事業期間	R1 年度	～	R4以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)	
支出内訳					機械器具購入費	1,624千円	通信運搬費	635千円
					(スマートフォン41台)			
					(ノートパソコン)			
合計						1,624千円		635千円
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源						1,624千円	
合計						1,624千円		635千円
人工数(人件費)	0.00	千円	0.00	千円	0.10	578千円		
総経費						2,202千円		


※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H29	H30	R1	R2
1 災害対策本部等の設置	活動			設定しない	設定しない
				0回	
2 災害対策本部設置訓練の実施	活動			1回	1回
				1回	
3 防災担当者会議の実施 (スマートフォン取扱説明含む)	活動			100.0%	
				2回	設定しない
				2回	
				100.0%	

成果	スマートフォンの導入により、災害発生場所及び災害状況の把握が画像をとって視覚的に確認することが早急に行えるようになった。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	他のシステム等とリンクさせ、より分かりやすく簡単なスマートフォンを利用した情報伝達ができるように行う。				
目標達成度	A	令和3年度に向けた方向性			
	成果	現状維持	コスト	現状維持	⑤
特記事項					

No.	番号	管理課	配備場所及び名称	優先電話	用途
1	1	地域活性化室	山陽総合事務所1	優	
2	2	地域活性化室	山陽総合事務所2	優	
3	3	地域活性化室	山陽総合事務所3	優	
4	4	社会福祉課	埴生中学校		第1避難所
5	5	社会福祉課	厚狭地区複合施設		第1避難所
6	6	社会福祉課	埴生公民館		第1避難所
7	7	社会福祉課	厚狭小学校		第1避難所
8	8	社会福祉課	厚狭中学校		第1避難所
9	9	社会福祉課	津布田小学校		第1避難所
10	10	企画課	広報対策部1		災对本部:広報
11	11	企画課	広報対策部2		災对本部:広報
12	12	企画課	広報対策部3		災对本部:広報
13	13	企画課	広報対策部4		災对本部:広報
14	1	土木課	建設部3		災对本部:土木
15	2	土木課	建設部4		災对本部:土木
16	3	農林水産課	農林水産課2		災对本部:農林
17	4	農林水産課	農林水産課3		災对本部:農林
18	5	総務課	第2避難所1		第2避難所
19	6	総務課	第2避難所2		第2避難所
20	7	総務課	第2避難所3		第2避難所
21	8	総務課	第2避難所4		第2避難所
22	9	総務課	第2避難所5		第2避難所
23	10	総務課	第2避難所6		第2避難所
24	1	総務課	総務課1	優	総務課メイン
25	2	総務課	総務課2	優	災对本部:総務
26	3	農林水産課	農林水産課1	優	
27	4	社会福祉課	災害救助部		
28	5	土木課	建設部1	優	
29	6	土木課	建設部2		
30	7	消防課	小野田消防署	優	
31	8	社会福祉課	本山公民館		第1避難所
32	9	社会福祉課	赤崎公民館		第1避難所
33	10	社会福祉課	須恵公民館		第1避難所
34	11	社会福祉課	市民館		第1避難所
35	12	社会福祉課	有帆公民館		第1避難所
36	13	社会福祉課	高泊小学校		第1避難所
37	14	社会福祉課	高千帆小学校		第1避難所
38	15	社会福祉課	高千帆福祉会館		第1避難所
39	16	社会福祉課	厚陽中学校体育館		第1避難所
40	17	総務課	総務課3		総務課予備
41	18	情報管理課	情報管理課		災对本部:広報 兼 住基ネット等保守用
合計			41		

 各課事前配備

 避難所事前配備

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 地域活性化室 地域活性化室 No 6 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2	市民生活・地域づくり・環境・防災	12	地域づくりの推進	3	中山間地域の活性化
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	中山間地域づくり推進事業		中山間地域づくり推進事業			政策的
	中山間地域においては、農林業従事者の減少、高齢化の進行により、荒廃した森林や耕作放棄地が増大している。また、担い手の減少、高齢化により集落機能の維持が困難となる地域もある。このため、地域資源を活用した農林水産業の振興や生活環境の整備など、地域の課題解決のための施策を推進し、中山間地域の活性化を図る。					対象 中山間地域(山陽地区)の住民 手段 中山間地域のコミュニティづくり、山口県との連携、地域おこし協力隊の設置 意図 中山間地域の活性化

事業期間	R1	年度	~	R4以降	年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)			
					非常勤特別職報酬	332千円	会計年度任用職員報酬	1,649千円		
					普通旅費	179千円	期末手当	358千円		
					消耗品費	169千円	社会保険料	315千円		
					修繕費	953千円	普通旅費	345千円		
					機械器具費	676千円	修繕料	1,120千円		
					やまぐち元気！むらまち交流推進協議会	50千円	機械器具借上料	245千円		
					その他	53千円	その他	846千円		
合計							2,412千円			4,878千円
財源内訳	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源						2,412千円		4,878千円	
合計							2,412千円			4,878千円
人工数(人件費)	0.25	1,459千円	1.35	7,800千円	1.10	6,353千円				
総経費							8,765千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H29	H30	R1	R2
1	地域おこし協力隊の設置	活動		推進方針作成・完了	2名募集・活動	1名募集
				(案)作成中	1名活動	
					50.0%	
2	第二次山陽小野田市中山間地域づくり指針の作成	活動		指針作成・完了	作成完了	
				(案)作成中	100.0%	
3	夢プランと同等の内容を持つ、元気生活圏づくり推進方針を作成	活動		推進方針作成・完了	作成完了	
				(案)作成中	100.0%	

成果	川上地区において、地域おこし協力隊の着任や県事業の「やまぐち元気生活圏活力創出事業」の準備に取り掛かったことで地域交流が促進された。また、第二次山陽小野田市総合計画を踏まえ、第二次山陽小野田市中山間地域づくり指針を策定し、中山間地域づくりの今後取り組む方向性を示すことができた。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	地域おこし協力隊員の確保のためには、募集内容や活動の充実を図るだけでなく市関係部局が連携できる体制が必要。また、行政主体ではなく、住民主体による地域づくり活動を推進するには、地域自らが地域づくり活動の必要性に気付き、多くの方にその事柄について正しく理解してもらい行動を変容させるための普及啓発に努める。				
目標達成度	B	令和3年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項	⑤				

6 中山間地域づくり推進事業資料

1 地域おこし協力隊の目的

生活の拠点を三大都市圏をはじめとする都市地域等から山陽小野田市に移し、住民票を移動する者を、山陽小野田市が、地域おこし協力隊として委嘱します。隊員は、農林水産業への従事、地域ブランドや地場産品の販売・PR等の地域おこしの支援や、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着することを活動目的としています。

- ・地域おこし協力隊員数 5,349人 (令和2年3月31日現在)
- ・山口県の地域おこし協力隊員数 53人 (令和2年4月1日現在)

2 募集内容

- 活動地域 川上地区(農事組合法人川上営農組合) 2名
- 活動内容 (1) 農業支援とゆめ市場川上での営業補助 (営農組合に従事)
 (2) 地域活動の補助 (河川清掃や道普請の作業参加)
 (3) 地域資源の活用 (情報発信、地域イベントの補助、6次産業化)
- 活動期間 委嘱日から1年間(最長3年)
- 雇用形態及び報酬月額 非常勤の特別職 月額166,000円
- 活動時間 1日7.75時間 週31時間

3 地域おこし協力隊員 スケジュール

月	中山間地域づくりPR事業	地域おこし協力隊
4月		4月～6月 第1回 募集要項作成 2名 市ホームページに掲載
5月		
6月		
7月		地域おこし協力隊募集チラシ等作成
8月		8月～3月 第2回 募集要項作成 2名 JOINホームページに掲載
9月		地域おこし協力隊 1名 応募 一次審査(書類選考)
10月	中国四国もうひとつのふるさと探しフェア in大阪(大阪 難波御堂筋ホール)	二次審査(面接) 採用通知書送付
11月	第2回地域おこし協力隊合同募集セミナー(東京 移住交流ガーデン)	
12月		
1月	JOIN移住交流&地域おこしフェア2020 (東京 東京ビックサイト)	
2月		地域おこし協力隊1名委嘱状交付 任期 令和2年2月1日～令和3年1月31日
3月		3月 第3回 募集要項作成 1名

川上地域元気生活圏づくり推進方針

山陽小野田市

1 元気生活圏の現状

(1) 構成集落

集落数	エリア設定の単位	集落名(基幹的集落を□で囲む)
4集落	学校統廃合前の小学校区	随光、奥の浴、宗末、松ヶ瀬
うち小規模・高齢化集落数		
3集落		

(2) 人口等

(令和元年10月1日現在)

区分	世帯数	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	高齢化率
現在(A)	47世帯	105人	1人	48人	56人	53.33%
5年前(B)	51世帯	132人	9人	65人	58人	43.94%
A-B	△4世帯	△27人	△8人	△17人	△2人	9.39%
A/B	92.16%	79.55%	11.11%	73.85%	96.55%	121.37%

(3) 地域コミュニティ組織の名称

名称	設立年月日
川上地区自治連合会	昭和53年4月1日
明日の川上を考える会	昭和57年7月 日

(4) 地域の夢プランの名称

名称	作成年月日
	平成 年 月 日

(5) 生活環境の状況

関連施設	箇所数	施設名(所在集落名)	
行政サービス	市町支所	0	
	公民館	0※	コミュニティ施設有(川上会館、松ヶ瀬)
	駐在所	0※	※美祢警察署東厚保警察官駐在所(美祢市)
子育て・教育	保育所	0	
	幼稚園	0	
	小学校	0※	※厚狭小学校区
	中学校	0※	※厚狭中学校区
医療・福祉	高等学校	0	
	病院・診療所	0	
生活関連	福祉施設	0	
	商店	1	ゆめ市場川上(松ヶ瀬)
	ガソリンスタンド	0	
	金融機関	0	
交通機関	郵便局	0※	東厚保簡易局(美祢市)
	バス停	7	上随光、随光、松ヶ瀬、奥の浴、宗末、新開、松ヶ瀬下
	JR駅	0※	※最寄りのJR駅 湯ノ峠(湯ノ峠)

2 元気生活圏づくりに係る基本的方向

当地区は、山陽小野田市旧山陽町域において、唯一販売拠点を運営する地域であり、学校統廃合前の小学校区内の4自治会によって構成される生活圏となる。本圏域は、基幹的集落である随光を中心とした、これに隣接する4自治会で構成された集落（川上連合自治会）であり、基本的な産業は川上営農組合を核とした谷間の圃場での米作をはじめとする農業の第一次産業である。しかしながら、生活環境の状況においてほとんどの施設が圏域外に存在し、地域の活力の低下に伴う地域外への人口の流出につながり、それが農業などの第一次産業の衰退につながっている。

こうした状況の中、地元有志が昭和57年7月に「明日の川上を考える会」を設立し、営農組合と連合自治会と一体となった地域づくりに取り組んでいるが、人口減少に伴う地域の活力低下に歯止めが利かず、そのため、地域おこし協力隊の導入などに取り組み、それを中心とした元気生活圏づくりの取り組みを進めているところである。

(1) 機能・サービスの拠点化

地元の川上営農組合が中心となり、運営している「ゆめ市場川上」や、旧山陽町立厚狭小学校川上分校が存在する松ヶ瀬地区を拠点と位置づけ、元気生活圏づくりに取り組む。また、旧山陽町立厚狭小学校川上分校の施設も地域住民のふれあいの場の創出を目指した拠点施設としての整備を検討する。

さらに、「ゆめ市場川上」で実施されるイベント情報や地域の魅力などの積極的なPRにより交流人口の増を目指す。

「ゆめ市場川上」は、国道316号線沿いの自然豊かな中山間地に立地しており、地区の高齢者や婦人により生産される新鮮な野菜、果物、花き、林産物、農産加工品、手芸品等多くの品数を揃えるなど、地域農業活性化に取り組んでいく。

《取組の視点》 ○拠点化する機能・サービスの種類とこれに係る仕組みづくり、施設整備
○元気生活圏内において不足する機能等とその補完 等

(2) 集落間のネットワークの強化

地域内の情報伝達については、厚狭小学校区内の全自治会を所管する厚狭地区自治会協議会のネットワーク機能や川上営農組合のネットワーク機能（連絡網等）を活用している。

また、生活交通については、既存の山陽小野田市デマンド型乗り合いタクシー（殿様号）を利用している。今後は現在の利用状況等を検証し、利便性を高める働きかけを担当課に行う。

《取組の視点》 ○生活交通の確保と公共交通機関との連携
○ICTを活用した情報ネットワークの整備 等

(3) 地域コミュニティ組織の育成

地区に存在する川上営農組合を中心として、厚狭小学校区内の各種団体を横断的につなぐネットワークづくりについて検討し、小学校区内の連携を進める。

《取組の視点》 ○新たな地域コミュニティ組織づくり
○元気生活圏の運営等において組織が担う役割と対応、地域おこし協力隊 等

(4) 地域産業の振興と新たなビジネスづくり

特産品である農産品や農産加工品の情報発信に取り組む。

また、旧山陽町立厚狭小学校川上分校の施設を活用し、新たな商品の開発、販売やイベントの開催等を検討し、地域活性化につなげていく。

- 《取組の視点》 ○農林水産業等の振興
 ○地域の資源や特性を活かした新たなビジネスづくりや事業者の誘致 等

(5) 都市部からの移住・定住の促進

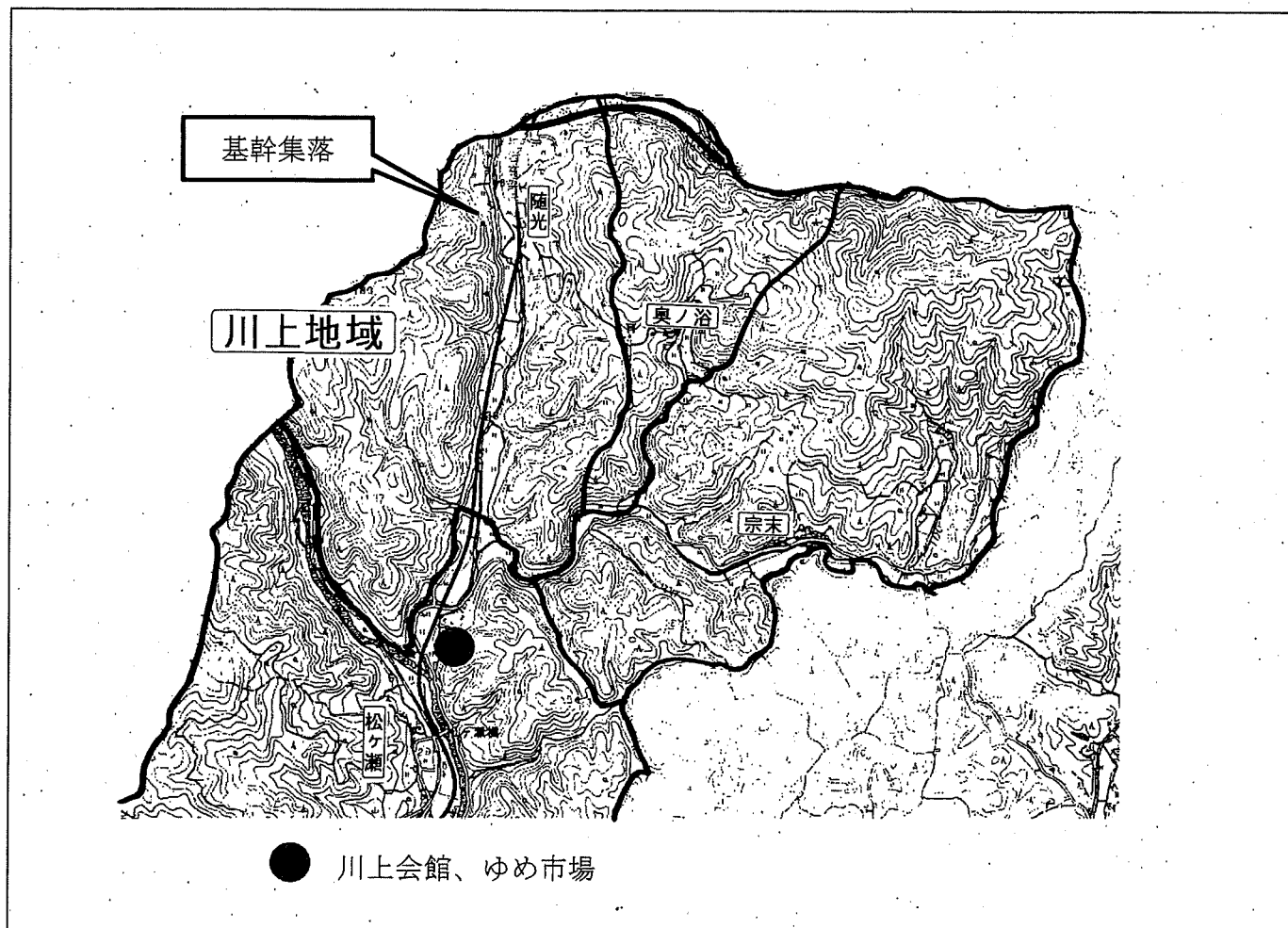
川上営農組合に、当地区で活動する地域おこし協力隊2名を配置し、川上地区で活動する隊員のネットワーク等により、様々な媒体を使ったPRなどを行う。
 また、平成29年度に本市生活安全課が実施した空家調査や空家意向調査の結果について、所管課と情報の活用・共有について協議し、利活用可能な空家等をリストアップ後、企画政策課の持つ移住希望者とのマッチングについて検討する。

- 《取組の視点》 ○空き家を活用した移住者向け住宅の確保・整備
 ○お試し暮らし住宅の整備や移住支援員の配置 等

3 元気生活圏づくりの主な取組

主 な 取 組 (見込み)	実施主体等
・イベント時に収益を得る方法を考える	川上地区 自治連合会
・イベント情報など地域の魅力を幅広く情報発信する	
・旧厚狭小学校川上分校を加工品開発拠点として整備し、6次加工品の産業化を含めて、マーケティング方法を検討し、促進する	
・人が集まるイベント開催の検討	
・旧厚狭小学校川上分校を生産開発拠点として整備し、あわせて独居老人が集まれる機会をつくる	
・道路景観保全のための清掃活動の実施	
・川上ゆめ市場を整備し、地元産の農作物を中心とした販売促進を行う	

●川上地区集落図



令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 No. 7 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2	市民生活・地域づくり・環境・防災	17	移住・定住の推進	1	転入者の定住促進
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	UJIターン支援事業			移住就業・創業支援事業		政策的
	<p>国において、東京一極集中の是正を図り、UJIターンを促進するとともに、人手不足に直面する地域の企業の人材確保を図るため、移住支援制度を創設することにより、本市においても県と連携しながら当事業を実施することにより東京圏からの移住及び就業・創業を支援する。 ・東京圏から移住し、かつ、中小企業に就業し、又は創業した場合に移住支援金を1人最大100万円(国50万円、県25万円、市25万円)交付する。 ※なお、創業した場合には、移住支援金に加えて起業支援金1人最大200万円(国100万円、県100万円)も別途県から交付される。</p>				対象	東京23区在住者又は通勤者のうち、本市に移住し中小企業に就業した者又は創業した者
				手段	移住支援金の交付	
				意図	移住者に支援金を交付することで、東京圏からの移住及び就業・創業を後押しする。	

事業期間	R1 年度	～	R4以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)	
							移住就業・創業支援補助金	3,000千円
合計								3,000千円
財源内訳	国庫支出金						国・県一括(3/4)	
	県支出金						2,250千円	
	地方債							
	その他						750千円	
一般財源							750千円	
合計								3,000千円
人工数/人件費					0.05	289千円		
総経費								

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H29	H30	R1	R2
1	移住支援金を交付した人数(移住者)	成果			3人	3人
					0人	
					0.0%	
2						
3						

成果	移住支援金を交付した人数は0人であった。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	県及び市ホームページ等を活用して制度のPRを行う。また、首都圏で行われる移住フェアでチラシ等を配布し、PRを行う。				
目標達成度	D	令和3年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項	⑤				

移住支援事業

県において、東京圏への一極集中の是正及び地方の中小企業等における人手不足の解消を目的に、東京圏から山口県内に移住し、就業又は創業した方に対し、「移住支援金」を支給する事業。本市においても県と連携しながら当事業を実施することにより、東京圏からの移住及び就業・創業を支援する。

移住支援金の対象となる要件

(1) 移住元

以下のすべてに該当する方

- ・ 転入する直前の10年間のうち、通算5年以上、東京23区内に在住又は東京圏(東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県)のうちの条件不利地域以外の地域に在住し、東京23区内へ通勤していた方
- ・ 転入する直前に連続して1年以上、東京23区内に在住又は東京圏(東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県)のうちの条件不利地域以外の地域に在住し、東京23区内へ通勤していた方

(2) 移住先

以下の要件に満たすことが必要

- ・ 令和元年8月7日以降に転入したこと(※移住創業の場合は平成31年4月18日以降に転入したこと)
- ・ 申請後5年以上継続して本市に居住する意思があること 等

(3) 就業又は創業に関する要件

【就業】

- ・ 就業先が、やまぐち移住就業マッチングサイトに掲載されている求人であること
- ・ 申請時において連続して3か月以上在職していること
- ・ 申請後5年以上継続して勤務する意思があること 等

【創業】

- ・ 申請時において「やまぐち創業補助金」の交付決定を受けてから1年以内であること
- ・ 地域の課題に対して「社会性」「事業性」「必要性」の観点をもって取り組む社会的事業者であること

移住支援金の種類	支援金の額
移住(就業)支援金	最大100万円(2人以上の世帯)、単身の場合は60万円 ※1
移住(創業)支援金	上記に加えて、最大200万円 ※2

※1 申請先は市。

※2 申請先は県。起業支援金1人最大200万円(国100万円、県100万円)が県から交付される。

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 No 8 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	4	シティセールスの推進
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	シティセールス推進事業		3-(1)	ハロウィンイベント実施事業		政策的
	市のイメージカラー「オレンジ」との親和性が高く、若者に人気のハロウィンに着目し、令和元年10月20日(日)、映像等を効果的に活用した作品の上映やステージショー等の参加型イベント「スマイルハロウィン・パーティー」を開催して、市の魅力を大々的にPRするとともに、同イベントに関わった人の本市に対する誇りや愛着の醸成を図った。また、10月の1か月間、「スマイル・オレンジフェア」を実施し、参加事業所によるサービス提供やディスプレイコンテストの開催、関連イベント等の連携を図ることで、市内全域における交流人口の増加を狙った。					対象 市内・市外の人
						手段 参加型イベントの開催
						意図 市の認知度の向上、交流人口の増加、誇りや愛着、共感を得る

事業期間	R1 年度	～	R2 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)	
					スタジオ・スマイル補助金	10,000千円	スタジオ・スマイル補助金	10,000千円
合計						10,000千円		10,000千円
財源内訳	国庫支出金				1/2	5,000千円	1/2	5,000千円
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源					5,000千円		5,000千円
合計						10,000千円		10,000千円
人工数(人件費)					1.35	7,797千円		
総経費						17,797千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H29	H30	R1	R2	
1	映像等を効果的に活用したプロモーション作品の上映を制作するために取材する地域資源(取材箇所数)	活動			15箇所	20箇所
					15箇所	
					100.0%	
2	イベントにスタッフ等として参画する市民等の人数(実人数)	成果			50人	70人
					136人	
					272.0%	
3	スマイルハロウィン・パーティーへの集客	成果			10,000人	12,000人
					26,000人	
					260.0%	

成果	本市の魅力をPRするイベント「スマイルハロウィンさんようおのだ2019」を、初めて開催した。このイベントは、これまで市のPRなど、まちづくりにあまり関心を持っていなかった若者が多く参加した(イベントにスタッフ等として参画した理科大生は75人)。「スマイルハロウィン・パーティー」では、想定以上の集客数が得られ、多くの市民に受け入れられた。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	令和2年度の「スマイルハロウィン・パーティー」は中止となったが、市の魅力を大々的にPRするため、令和3年10月の1か月間、ハロウィンイベントを開催する。令和元年度に実施した仮装パレードやコンテスト等のステージショー、プロジェクションマッピングの改善に加え、新型コロナウイルス感染症の影響のある中での実施内容を検討する。				
目標達成度	A	令和3年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項	⑤				

1 スマイルハロウィン・パーティー事業

ハロウィン、オレンジ及びスマイルをモチーフにした参加型のPRイベント（「スマイルハロウィン・パーティー」と称する。）の開催

(1) 日 時

令和元年10月20日（日） 14時から20時まで
 （飲食・物販は11時30分から先行開始）

(2) 場 所

おのだサンパーク駐車場及び館内

(3) 内 容

ア ステージイベント

【計画】

ハロウィンやオレンジ、スマイルのモチーフを活かしつつ、市内で活躍する人や団体（スポーツ系・文化系）、市出身アーティスト等のファンづくりに繋がるようなステージイベントを実施する。（おのだサンパーク館内も活用）

また、子ども達（幼保・小中高生）も主役となれるような企画も実施する。

【実績】

※メインMC：篠原海さん
 ※サブMC：藤井瑛実加さん } 山陽小野田市出身者を登用！

■名曲に乗せて山陽小野田をPR。山陽オート、ガラス、山口東京理科大学、パラサイクリング、カルタ、ゴルフ、レノファ山口等をPRトークと演奏やダンスを交互にテンプよく繋いだ。

■自動車関連のトークショーを合間に入れた。出演者は、理科大の貴島先生のほか、イラストレーターの種田さん、小阪さんとオーナー2名。種田さん、小阪さんには山陽小野田市のお気に入りの場所のイラストも披露してもらった。

■山陽小野田市出身のシンガーソングライター西広ショータ・近藤田付也氏が当イベントの応援ソングを制作しライブ演奏を実施。（ライブ時には、レノファ山口の応援ソングを手掛けた水本諭氏も出演）

■この他、推理クイズやゾンビ襲来も実施。

■「仮装パレード&コンテスト」を実施。パレードで館内を練り歩き、その後コンテスト参加者のみステージでパフォーマンスを披露した。コンテストには8つの賞を設け、受賞者には小野田ガラスのプレートを進呈した。

■パレード参加者（受付通過者255人）の属性は以下のとおり

世 代	幼 児	小学生	中学生	一般その他	合 計
人 数	85	85	2	83	255



仮装コンテスト・グランプリ



参加区分	組数
企業・一般の部	6
ファミリーの部	6
ユースの部	5
ジュニアの部	10(9)
計	27(26)

※ジュニアは当日1組キャンセル

イ マルシェ・展示

【計画】

ハロウィンやオレンジ、スマイルのモチーフを活かして工夫を凝らした市内の名産品等の物産販売や飲食物の提供を行う。

また、市の魅力を発信するPR・体験コーナーも設ける。

【実績】

<マルシェ>

■飲食ブースは、市内の若者団体（JC、小野田YEG、理科大）が出店。加えてキッチンカーを3台呼び、若者好みの飲食を提供した。

■名産品認定業者への出店要請を行い（観光協会）、「名産品フェア」並の出展者（12者）を確保した。

<展示・体験>

■行政展示関連は以下の内容で実施した。

- ・文化振興課…ガラス体験
- ・スポーツ振興課…レノファPR
- ・公営競技事務所…山陽オート
- ・健康増進課…かぼちゃのポタージュスープの無料配布（「食推」とコラボ）
- ・農林水産課…「かぼちゃのランタンづくり体験」（「JA」とコラボ）
- ・シティセールス課…パラサイクリング、観光PRの他、行政施策の紹介

■「トリック・オア・トリート」を実施。単に子供にお菓子をあげるのではなく、『エコキャップ運動』と連動。ペットボトルのキャップを会場特設ブースに持参した子ども（大人もOK）にお菓子をあげることで、環境問題・貧困問題等に興味を持ってもらうきっかけとした。集めたキャップを活動団体に渡すのは山口銀行小野田支店が協力（小さな親切運動の山陽小野田支部事務局として）

ウ スーパーカーミーティング

【計画】

スーパーカー等が大集結し、車の魅力を紹介するとともに、ドライブ旅行適地としての本市の魅力をPRする。

【実績】

■山口県スーパーカーツーリングクラブから14台が参加。山陽オート→ソル・ポニエンテ→サンパークと疾走した。サンパークでは理科大自動車部のフォーミュラカーも展示した。



2 プロジェクションマッピングを活用した本市をPRする映像作品等の制作

(1) プロジェクションマッピング作品の制作及び上映

【計画】

市内各所で撮影した本市の魅力ある地域資源を素材とした物語を編み、デジタルアートと融合させた映像作品に仕立て、スマイルハロウィン・パーティーで上映する。

また、上映の際は、ステージを活用した臨場感のある演出を加えることで、観覧者の印象に残るような作品とする。

なお、上映の様子を動画に収め、後のPRにも活用する。

【実績】

■150年の眠りから覚めたプレゼンターの「イケメン又兵衛」が、バイクに跨って市内の各所を回りつつPRを行う構成とした。

第1部：目覚めた又兵衛がコウモリと闘い、かぼちゃへ変化させる。

第2部：又兵衛が市内のビジュアルの中を駆け巡る。

第3部：さんハロへGO！

第4部：フィナーレ（Smile）

■理科大からはアプリ開発部等の3名の学生が制作に参加した。

■上映の様子を撮影し、総集編として取りまとめてYouTubeに投稿した他、市のPR用動画としても編集し、今後も活用を図ることとする。



(2) イベントで取り上げる地域資源のPRやイベント告知用の動画の制作及びアップロード

【計画】

イベントへの興味喚起をもたらすような動画を制作し、YouTubeを活用して広く認知を図る。

【実績】

■市のスマイルプランナーでもある市民ボランティアや「さんハロPR大使」となった藤井瑛実加さんの協力を得て制作。

・Vol.1：映画の予告編的なもの

※又兵衛がバーチャルユーチューバーとして登場

・Vol.2：「さんハロへGO！」のMV調のもの

- ・Vol.3:「さんハロへGO!」のダンスレッスン用のもの
- ・Vol.4:「さんハロへGO!」の本番ステージのもの(大画面バージョン)
- ・Vol.5:ハロウィン・パーティー総集編



3 オレンジ月間事業

オレンジ等への関心を高めながら、市内各所で開催される観光・交流イベントへの参加や市内での消費拡大を促進する「オレンジ月間」の啓発・推進

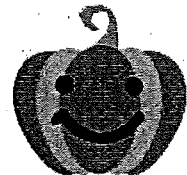
(1) シンボルマーク・キャッチコピー等の策定

【計画】

オレンジ月間の普及・啓発のため、シンボルマークやキャッチコピーを策定する。

【実績】

- パーティーと月間とを分けず、ハロウィンイベント全体を「スマイルハロウィンさんようおのだ2019」としてPRすることとし、そのマークを制作。



- 「オレンジ月間」については、若者等に対しても受け入れられやすいように「スマイル・オレンジフェア」と称してPRすることとした。

(2) 協賛事業者（オレンジフェア参加事業者）の獲得

【計画】

オレンジフェアの趣旨に賛同し、自らオレンジ等への関心を高めるようなサービスを提供する商業施設・店舗等（参加事業者）を獲得する。

また、参画を促すための来店促進企画として、スタンプラリーや抽選会、ショップディスプレイコンテスト等の実施も検討する。（アサギマダラの飛来も活用可能なコンテンツ）

【実績】

- 初回ながら多くの参加事業者（101事業者）を得ることができた。
- まちなかに参加事業者の幟が立ち並び、またショーウィンドーや店舗内をハロウィンらしい飾りつけが彩り、イベントの雰囲気づくりにも貢献した。

■参加店舗のイベント終了後の感想等は以下のとおり。

(参加事業所数：101 (特別サービス提供：35、ディスプレイ：43、両方：23)

・回答数99 (回収率：98.0%)

参加した感想	良かった 面白かった	悪かった つまらなかった	特になし
回答数(比率)	63(63.6%)	1(1.0%)	35(35.4%)

来客・売上への 影響があった	あった	なかった	客等とのコミュニケーション にはなった
回答数(比率)	18(18.2%)	78(78.8%)	3(3.0%)

次回の参加意向	ある	ない	現時点不明
回答数(比率)	78(78.8%)	2(2.0%)	19(19.2%)



ディスプレイコンテスト・グランプリ



(3) 関連イベントの確保

【計画】

ハロウィンやオレンジ、スマイルの統一的なコンセプトでオレンジ月間の盛り上げに協力してくれるイベント主催者を獲得し、企画面や広報面で協力する。

【実績】

- 市民文化祭、市民音楽祭、江汐公園秋のふれあい祭り、きらら交流館まつりが関連イベントとしてロゴマークの活用で協力。
- 料飲店組合はスタンプラリーの実施で協力。
- 竜王山ウォークは、ウォーク参加者が参加者証の缶バッジをスマイルハロウィン・パーティー時にシティセールス課ブースに持って来ればプレゼント(ぼん菓子)を渡すという形で集客に協力。(13名が来場)

(4) 市内の修景

【計画】

市役所や主要駅等をハロウィンやオレンジ、スマイル仕様に修景し、ムードを盛り上げる。

【実績】

- 厚狭駅在来線口に横断幕を設置。(小野田駅は掲示スペースを限定されたため断念)
- 市役所に幟を抱えたほか、市役所や各支所の受付カウンターを装飾した。
- 実行委員会事業のほか、「JR小野田線利用促進協議会」が小野田線沿線の各駅舎を周辺の幼稚園・保育園等の協力で修景してくれた。



(5) 広告提供者の獲得

【計画】

広告媒体と料金体系を検討し、スポンサーを獲得する。

【実績】

- 協賛区分は以下のとおり。

ア 5,000 円以上 イ 10,000 円以上 ウ 30,000 円 エ 50,000 円以上

- 協賛特典は以下のとおり。

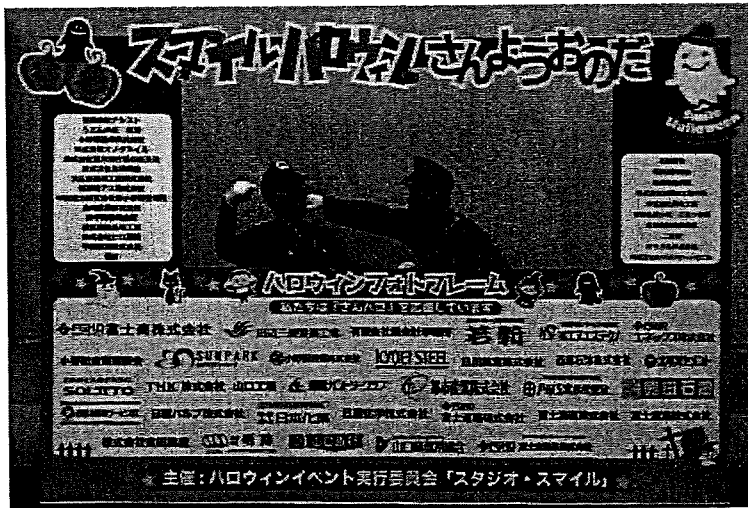
【全区分共通】

- ・イベント公式ホームページでバナー広告等を掲出
- ・「スマイルハロウィン・パーティー」の当日会場で配布するプログラムで企業名を掲載
- ・同パーティー会場内での企業名看板掲出

【エ区分のみ限定特典】

- ・YouTube に投稿するイベントPR用動画内で応援企業として企業名等を掲載
- ・「スマイルハロウィン・パーティー」時に上映するプロジェクションマッピングの壁面スクリーンで企業紹介
- ・同パーティー開催日にサンパーク内（セントラルコート）で企業ブースを設置

- 57社・団体から 1,917,920 円の協賛金とサービスを頂戴した。



4 広報事業等

【計画】

チラシの作成ほか

【実績】

- チラシ2万枚、ポスター300枚を作成
- 専用のホームページを開設。フェイスブック、インスタグラム、ツイッターも活用。
- YouTubeへの動画投稿
- FM サンサンきらら特別番組「さんハロへGO!GO!GO!」を放送
- オリジナル応援ソング「さんハロへGO!」の制作
- さんハロ PR大使の登用（藤井瑛実加さん）と大使によるイベント出演等
- 駅頭でのチラシ配布（10月1日、小野田駅・厚狭駅）



5 その他

【実績】

■交通関係

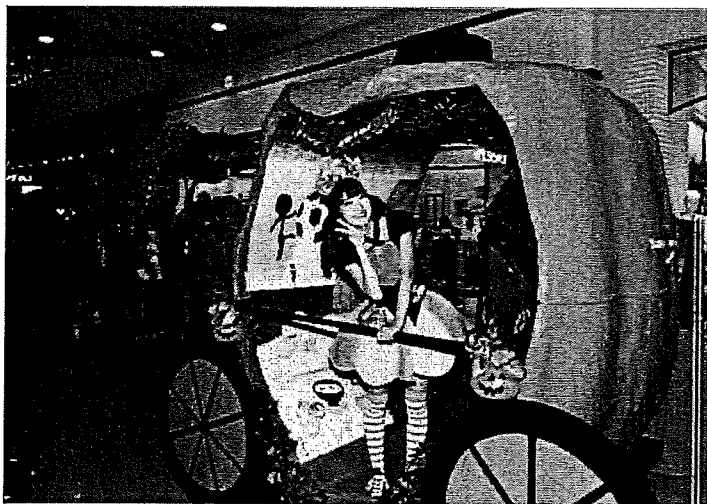
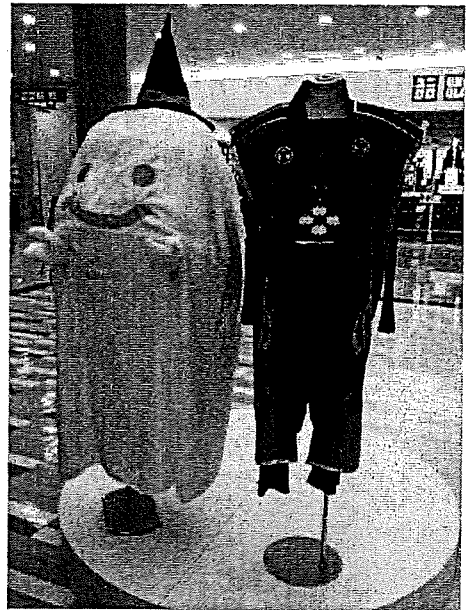
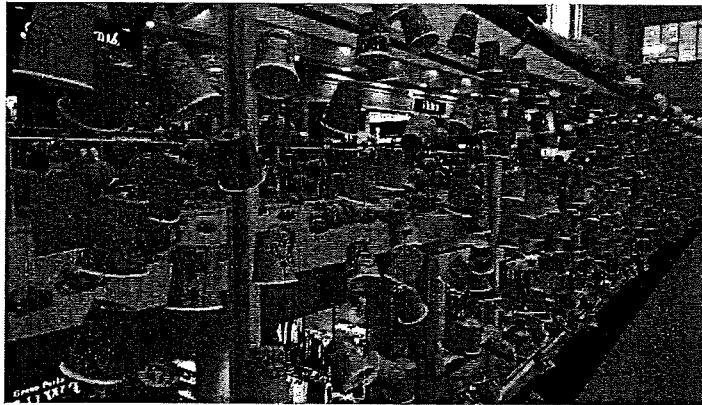
- ・パーティー当日の臨時駐車場については、市サッカー場、運動公園、小野田小学校等約1,000台分を確保。
- ・小野田線については、車両の増結を行った。
- ・船鉄バスについては、小野田駅行き最終便を4台増やした。

■地元対策

- ・小野田地区自治会協議会長へ事業の説明へ訪問。地区内31自治会への周知を依頼。特に会場に近い2自治会については、自治会長へ個別に訪問。
- ・サンパークに隣接するアパート等の住人については、個別訪問等を検討。

■小野田青年会議所の自主事業「I LOVE SANYO-ONODA」との共催

- ・仮装パレードについて、小野田青年会議所の協力により“リアルイケメン又兵衛”とお化けの着ぐるみ、かぼちゃの馬車が参加。また多くの子どもの参画を得て、ルート上の修景も行われた。



数値でみる「さんハロ」

12/23：最終

■数値目標

No	項目	目標値	実績値	備考
1	映像に素材として取り上げる地域資源の数	15個	15個	又兵衛、山陽オート、くぐり岩、焼野海岸、夕景、ガラス、かるた、竜王山からの眺望、かぼちゃ、桜、花の海（コスモス・ヒマワリ）、アサギマダラ、笠井順八翁、藤井瑛実加、笑顔の市民
2	イベントにスタッフとして関わる市民の実人数	50人	136人うち 理科大75人	10/20のパーティーのみ (当日スタッフは、市職員82人を加えた218人。)
3	イベントへの人出	10,000人	約26,000人	サンパーク入館者 25,944人

■その他

No	項目	実績値	備考
1	スマイルハロウィンパーティーの集客効果	約7,000人	前年同週日曜日の入館者 約19,000人
2	仮装コンテスト出場組数	26組103人	定員40組
3	仮装パレード参加者数（受付通過者と付添等）	約400人	コンテスト参加者を含む。
4	トリック・オア・トリート参加者	1,102人	定員2,000人
5	エコキャップの回収量	約120kg	
6	かぼちゃのランタンづくり参加者	38人	定員100人
7	かぼちゃのスープ提供数	670杯	1時間で達成
8	ステージイベント出演者数	234人	コンテスト参加者を除く。
9	名産品出店者数	12事業者	観光協会
10	名産品売上額計	314,455円	(名産品フェア時の約半分)
11	飲食ブース出店者数	7店	うちキッチンカー 3店

12	スーパーカー出展台数	14台	
13	プロジェクションマッピング観覧者数	約2,000人	ステージ周辺 (30m×45m×1/2)×3人
14	プロジェクションマッピング総上映時間	10分21秒	スポンサーCMを 含めば22分17秒
15	スマイル・オレンジフェア参加事業者数 (実数)	101事業者	
16	ディスプレイコンテスト参加事業者数 (実数)	66事業者	両方: 23事業者
17	特別サービス提供事業者数 (実数)	58事業者	
18	ディスプレイコンテスト投票数	1,221票	
19	特別サービス利用件数	4,256件	
20	関連イベント確保数	6件	市民文化祭、音楽祭、交流館まつり、竜王山ウォーク、江汐公園秋まつり、料飲店組合
21	PR動画再生回数	5,824回	10/30AM時点

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 No. 9 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	2	情報発信・誘客体制の強化・充実
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	観光振興事業		3-(1)	観光プロモーション事業		政策的
			3-(2)			
	平成30年度に実施した観光プロモーション調査事業を受けて、新たに設けたターゲット層を見据えた動画や観光パンフレットを令和元年度に作成した。そのうち、本市の魅力的な観光資源を収めた動画は、市公式YouTubeで公開するとともに、令和2年度から始めたJR小倉駅のデジタルサイネージにも活用して情報発信する。また、新たに作成した観光パンフレット「スマイル・スポット」は、山口県内及び北九州都市圏に居住する30~40代の女性を中心に配布することで、本市の認知度向上及び交流人口の増加を図る。					対象 市外県外の人
					手段 観光プロモーション動画の配信、観光パンフレット「スマイル・スポット」の配布	
					意図 本市の認知度向上、交流人口の増加	

事業期間	R1 年度	~	R2 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)	
支出内訳					観光プロモーション業務委託料	9,450千円	広告料	2,000千円
合計						9,450千円		2,000千円
財源内訳	国庫支出金				1/2	4,725千円	1/2	1,000千円
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源						4,725千円	
合計						9,450千円		2,000千円
人工数(人件費)					0.40	2,310千円		
総経費						11,760千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H29	H30	R1	R2
1 動画制作	活動			5本程度	
				6本	
				120.0%	
2 パンフレット制作 (日本語・外国語4種類)	活動			3万部	
				3万部	
				100.0%	
3 プロモーション回数	活動			2回(イベント)	5回(イベント)
				3回	
				150.0%	

成果	観光パンフレット「スマイル・スポット」日本語版1万部と外国語版(英語、韓国語、繁体字、簡体字)各5,000部の製作と、観光プロモーション動画(長編4分×1本、15秒CM×5本)を制作し、動画については山口朝日放送の番組内での紹介やCMとして放映した。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	令和元年度に作成したパンフレット「スマイル・スポット」やプロモーション動画を活用して、引き続き効果的な情報発信に努めていく必要があるが、新型コロナウイルス感染症下における「新しい観光」の実践など新たな取組についても検討する必要がある。また、パンフレットの配布状況、掲載情報の更新などを勘案し、「スマイル・スポット」の増刷を検討する。				
目標達成度	A	令和3年度に向けた方向性			
	成果		コスト		
特記事項	令和2年度で一時事業終了				

○令和元年度観光プロモーション事業

1. 動画制作及び配信業務委託

(1) 企画コンセプト

ア 単に風景等を流すのではなく、例えば、来訪者が地元の人々や観光施設のスタッフの笑顔とふれあいながら体験する様子等、ストーリー性のあるものとし、第二次総合計画の将来都市像として掲げている「活力と笑顔あふれるまち」を視聴者が感じられる動画を制作する。また、音楽は観光素材や動画の内容に合うものを提案者が制作又は選曲する。

イ 観光素材は自然、人、体験、食を中心とし、モデルコースの紹介等、観光行動に直結しやすい内容となるよう工夫する。

ウ メインターゲットは30～40代女性とするが、サブターゲットとしては20～60代男女の幅広い層とする。

エ ターゲットとプロモーションの方法・目的を明確にした上で動画の尺、本数を決定する。

オ インバウンド用としても活用するため、テロップ等は各言語別（英語、韓国語、繁体字、簡体字）に作成する。

(2) 制作事業者

山口朝日放送株式会社

山口市中央3丁目5-25

※公募型プロポーザル方式により、6者の応募者から上記事業者に決定

(3) 費用 4,500,000円（消費税及び地方消費税の額を含む。）

(4) 制作物

15秒動画×5パターン（風景編、街並み編、窯業編、グルメ編、旅の総集編）

長編動画（約4分）×1パターン

(5) 配信業務

ア テレビにおける配信

YABスポット配信（2020年1月25日～3月19日の期間中、100本のCM放送）

YABウェザーリポート（くぐり岩及び花の海を背景映像に全8回放送）

YAB番組内でのレポート（やまぐち百景、Jチャンやまぐち、ひるくる!）

イ インターネットにおける配信

動画出演者募集記事の配信（LINE@配信及びFacebook投稿）

動画出演者のInstagramアカウントでの投稿（25回/いいね数2,032）

山陽小野田市の紹介記事掲載（2,548ページビュー）

制作した動画のSNS配信（Instagram投稿1回）

朝日新聞デジタルTOP（2020年2月24日～3月8日の期間中、ビルボード広告）

ウ その他（市独自配信）

山陽小野田市公式動画チャンネルYouTube配信

おのだサンパーク、JR厚狭駅、山陽オートレース場

2. パンフレット制作業務委託

(1) 企画コンセプト

- ア 本市の魅力を印象深く写真やデザインで紹介できるパンフレットを制作する。
- イ メインターゲットは30～40代女性とするが、サブターゲットとしては20～60代男女の幅広い層とする。
- ウ 観光素材は自然、人、体験、食を中心とし、モデルコースの紹介等、観光行動に直結しやすい内容とする。
- エ 見る人が、情報を容易に取得できるように紙面の構成方法・文章表現・QRコードの掲載等を工夫して制作する。サイズや紙質は手軽に手に取り持ち運びやすいものを選択する。

(2) 制作事業者

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

京都市右京区西京極西池田町9-5 西京極駅前ビル6F

※公募型プロポーザル方式により、7者の応募者から上記事業者に決定

(3) 費用 4,950,000円 (消費税及び地方消費税の額を含む。)

(4) 制作物

観光パンフレット「スマイル・スポット」(A5サイズ、全20ページ)

日本語版 10,000部

外国語版 各5,000部 (英語、韓国語、繁体字、簡体字) 合計30,000部

(5) 掲載内容

ア Nature Spot (ネイチャー・スポット)

花の海、江汐公園、物見山公園、縄地ヶ鼻公園、きららビーチ焼野、竜王山公園、本山岬くぐり岩

イ Activity Spot (アクティビティ・スポット)

ぶどう園、きららガラス未来館、永山酒造合名会社、山口ワイナリー、産業観光バスツアー、ゴルフ場、ヨガ・SUP、江汐公園周辺

ウ Food Spot (フード・スポット)

みちしお、ティーゲベック、ラーメン加藤、浜のてんぷら屋、手打ちそば野の花、トロアメゾン、蔵間、ソル・ポニエンテ、灯、カレー屋ロック、泉屋本店、グランシャリオ、ポテト、須恵の郷

エ おすすめモデルコース (日帰り)

女子旅編・・・花の海、いたりあん食堂、厚狭商店街、須恵の郷、きららガラス未来館、きららビーチ焼野、ソル・ポニエンテ

カップル旅編・・・永山酒造、山口ワイナリー、Regal、くぐり岩、パン・デ・モルデ、きららビーチ焼野、きらら交流館、若新

家族旅編・・・花の海、徳利窯、竜王山公園オートキャンプ場、きららガラス未来館、浜のてんぷら屋、みちしお

(6) 主な配布先

市役所、総合事務所、埴生支所、南支所、各公民館

JR厚狭駅、新山口駅、山口宇部空港、おのだサンパーク

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係)	教育総務課	学校施設係	No	10	-
------------	-------	-------	----	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	5	教育・文化・スポーツ	32	学校教育の推進	2	義務教育環境の向上
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	学校施設整備事業		2-(3)	学校施設整備計画(長寿命化計画)		政策的
	学校施設の劣化状況を適切に把握し、長寿命化を含む適時・適切な整備と維持管理、財政負担の平準化を図るため、学校施設整備計画を策定します。				対象	市内学校施設
手段					現状の把握と今後の計画策定	
意図					学校施設の延命化と財政負担の平準化	

事業期間	R1 年度	~	R2 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)		
支出内訳					委託料			
					(施設整備	10,780千円		
					計画策定)			
合計						10,780千円		
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源						10,780千円	
合計						10,780千円		
人工数	人	件	費		0.21	1,213千円		
総経費						11,993千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H29	H30	R1	R2
1	施設整備計画の策定	活動		作成完了	
				未完了	
				95.0%	
2					
3					

成果	実地調査による学校施設の老朽化状況の把握し令和17年度までの計画期間で学校施設整備計画(長寿命化計画)の案を作成し、詳細を調整中である。			
令和3年度に向けた課題及び改善策	国は令和2年度までに個別施設計画の策定をすることとしているため、令和3年3月末までに計画を策定する必要がある。			
目標達成度	B	令和3年度に向けた方向性		
	成果		コスト	
特記事項	令和2年度事業終了			

令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係)	学校教育課	学務係	No. 11 -
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
5 教育・文化・スポーツ	32 学校教育の推進	2 義務教育環境の向上	
実施計画名	重点P	事務事業名	事業区分
教職員の資質向上事業	2-(3)	学校司書配置事業	政策的
事業概要	全ての小・中学校に学校司書を配置して、学校における読書活動を推進している。読書の機会の充実による読書活動の推進や授業での学校図書館の活用促進を行うとともに、学校図書館担当教員等の資質向上を図る。		
対象	児童生徒、教員		
手段	司書資格又は教員免許を有する人を任用して、小・中学校に配置する。		
意図	読書習慣の定着、授業での図書の利用、学校間の図書の相互利用の推進		

事業期間	H28以前	年度	～	R4以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)			
支出内訳	人件費	36,180千円	人件費	33,619千円	給料・諸手当	20,696千円	給料・諸手当	27,224千円		
					社会保険料等	3,757千円	社会保険料等	5,999千円		
合計		36,180千円		33,619千円		24,453千円		33,223千円		
財源内訳	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源		36,180千円		33,619千円		24,453千円		33,223千円	
合計		36,180千円		33,619千円		24,453千円		33,223千円		
人工数/人件費	0.15	875千円	0.15	867千円	0.20	1,155千円				
総経費		37,055千円		34,486千円		25,608千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H29	H30	R1	R2
1 学校司書配置校数	活動	18校	18校	18校	18校
		18校	18校	18校	
		100.0%	100.0%	100.0%	
2 小学校における1人当たりの年間貸出し冊数 (目標値の基準:H28実績1人58冊)	成果	58冊	58冊	58冊	58冊
		49.0冊	46.9冊	41.3冊	
		84.5%	80.9%	71.2%	
3 中学校における1人当たりの年間貸出し冊数 (目標値の基準:H27実績1人12冊)	成果	12冊	12冊	12冊	12冊
		7.4冊	7.8冊	5.4冊	
		61.7%	65.0%	45.0%	

成果	年間10回の研修会を実施し、情報共有、資質向上に努めることができた。学校司書の兼務により、4月当初は貸出冊数の減少が見られたが、児童・生徒による委員会活動や地域ボランティア、司書教諭等との連携により後半は増加してきた。また、学校司書の図書館運営や読書啓発活動により、児童生徒の読書習慣も定着してきている。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	令和元年度において、フルタイム、半日勤務等様々な組み合わせを試行し、現状(11名)から削減し運用することが可能か、検証を行ったが、小学校では、授業支援での司書の必要性が高く、授業に支障が生じることが想定されたため、更に1司書2校兼務体制をすすめることは困難という結論に至った。引き続き令和2年度も検証を行っていく予定であったが、新型コロナウイルス感染対策の休校等により、検証が困難な状態にある。したがって、令和3年度も現体制を維持して運用の見直しに向け、検証を行っていききたい。なお、現在もコロナ影響下であるため、感染症対策を講じながら、子どもたちの読書機会を増やすため、引き続き司書教諭等と連携し、読書習慣の形成に努めたい。特に、小学校のうちに読書習慣を形成し、中学校にスムーズにつなげていきたい。				
目標達成度	C	令和3年度に向けた方向性			
	成果	現状維持	コスト	現状維持	⑤
特記事項					

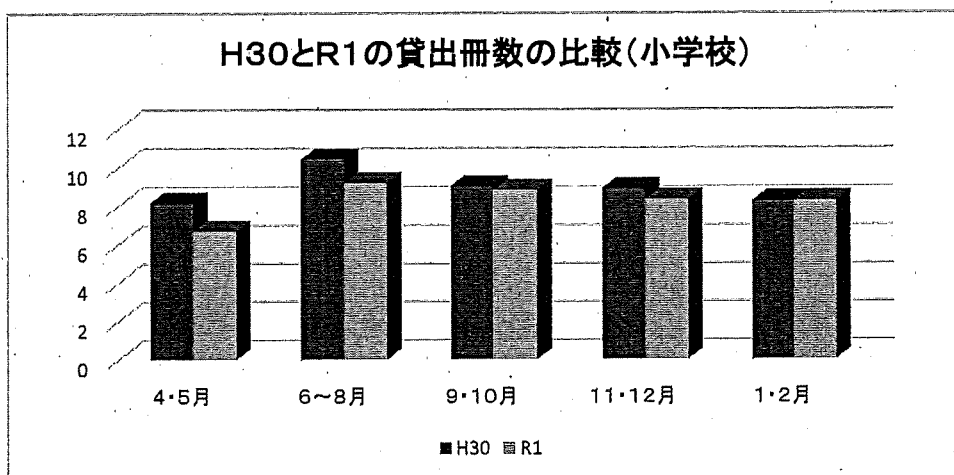
H30とR1の貸出冊数の比較

3月16日

【小学校】

単位:冊

	4・5月	6～8月	9・10月	11・12月	1・2月	合計
H30	8.18	10.44	9.04	8.90	8.25	44.81
R1	6.70	9.20	8.82	8.33	8.27	41.33
前年度比	81.9%	88.1%	97.6%	93.6%	100.2%	92.2%

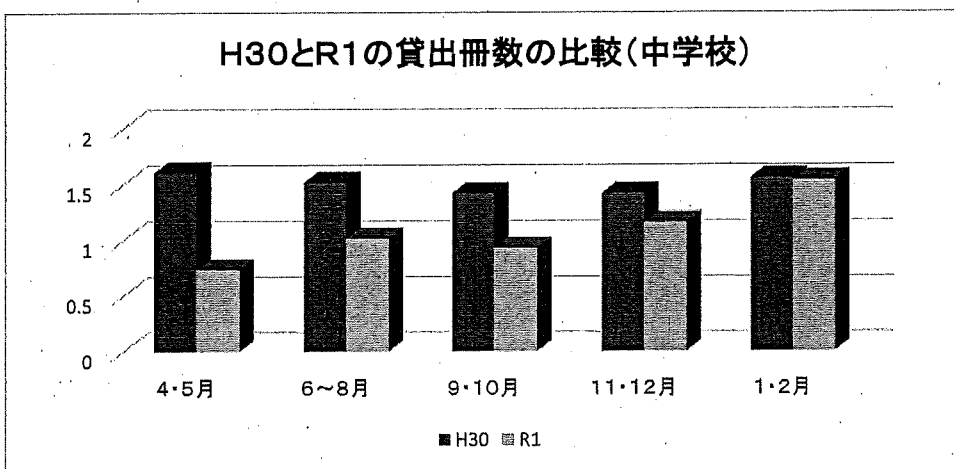


H30とR1の貸出冊数の比較

単位:冊

【中学校】

	4・5月	6～8月	9・10月	11・12月	1・2月	合計
H30	1.61	1.52	1.42	1.42	1.56	7.53
R1	0.74	1.02	0.93	1.16	1.54	5.39
前年度比	46.0%	67.1%	65.5%	81.7%	98.7%	71.6%



令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 学校教育課 No. 12 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	5 教育・文化・スポーツ		32 学校教育の推進		2 義務教育環境の向上	
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	教職員の資質向上事業		2-(3)	学校業務支援員配置事業		政策的
	教員の働き方改革の取組として、学校業務支援員を配置し、学校の事務的業務を補助することにより、教員の長時間勤務の削減を図る。				対象	小・中学校の教員
					手段	学校に学校業務支援員を配置して、教員が行っている事務的業務の一部を行わせる。
意図					教員の長時間勤務の削減	

事業期間	R1 年度	～	R4以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)	
					給料・諸手当	2,957千円	給料・諸手当	6,113千円
					社会保険料	14千円	社会保険料	55千円
	合計				2,971千円		6,168千円	
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金				1/2	1,469千円	1/2	1,950千円
	地方債							
	その他							
	一般財源				1,502千円		4,218千円	
合計				2,971千円		6,168千円		
人工数	人件費				0.06	347千円		
総経費						3,318千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H29	H30	R1	R2
1	学校業務支援員配置人数	活動			5人	5人
					5人	
					100.0%	
2	配置校の教員の時間外勤務時間数の削減率(前年比)	成果			20%削減	20%削減
					17.6%	
					88.0%	
3						

成果	印刷物、テストの仕分け、掲示物、配布物の仕分け回収、アンケートの集計、データの入力等これまですべて担当教員が行っていた雑務を業務支援員が行うことで、教員の負担が減り、時間外時間数も減少した。学校業務支援員の研修会を実施し、各校での業務内容や教員が業務支援員に依頼しやすいように工夫している点など情報交換をした。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	各学校において、個々の教員が学校業務支援員に依頼しやすい仕組みづくりを行うとともに、教員の業務量の削減のための好事例の普及を図りたい。				
目標達成度	B	令和3年度に向けた方向性			
	成果	現状維持	コスト	現状維持	⑤
特記事項					

平成31年度学校業務支援員配置事業概要

山口県教育庁教職員課

1 事業の趣旨

教員の長時間勤務を是正し、学校の指導・運営体制のさらなる充実を図るため、学校の事務的業務を補助する「学校業務支援員（以下「支援員」）を配置する市町を支援する。

2 実施主体

各市町

3 事業の概要

(1) 支援する学校数

県内の市町立小・中学校（以下「学校」）110校

(2) 支援の基準

次の①②のいずれかに該当する学校に配置する。

①平成30年4月から12月までの期間において、1か月当たりの平均時間外業務時間が、教員一人当たりで45時間以上の学校

②各市町において、学校における働き方改革を中心となって推進する学校

（当該学校を各市町において「働き方改革推進校」として位置付けること。）

(2) 支援員

(3) 支援員

① 業務内容

業 務	業 務 内 容 例
印 刷 等 業 務	学習プリント、学級だより、会議資料、保護者への連絡文書の印刷・仕分け など
学 習 ・ 学 級 事 務 業 務	提出物の点検、児童生徒の作品掲示、教材・教具の準備・片付け など
集 計 ・ デ ー タ 入 力 等 業 務	アンケート集計処理、各種調査のデータ入力、学習に関するデータ入力作業 など
そ の 他	学校行事、進路事務、保健室業務、簿冊の整理、会計事務の補助 など

② 勤務条件等

非常勤とし、勤務時間や日数等の勤務条件は、配置する市町で定める。

4 補助対象経費等

(1) 補助対象経費

報酬・賃金、報償費(社会保険料(本人負担分に限る。)を含む。)とする。なお、1時間当たりの報酬・賃金、報償費単価は各市町において定める。

(2) 補助金の額

補助対象経費の1/2以内(千円未満切捨て)とする。

(3) 補助対象経費の上限

報酬・賃金、報償費単価1時間1,000円、一人当たり年間700,000円とする。

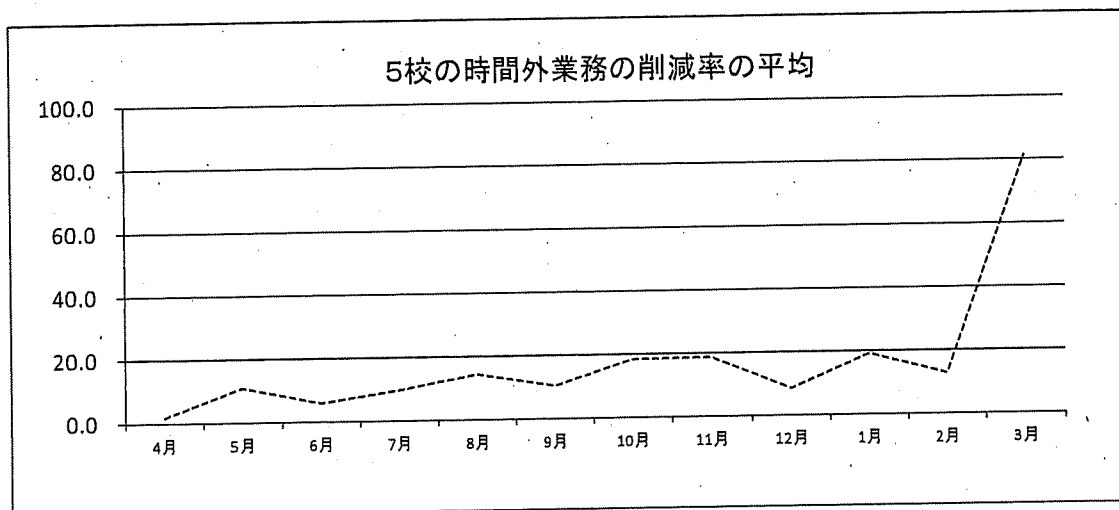
学校業務支援員配置校における時間外業務時間の削減状況について

◆H30とR1の時間外業務時間の削減率について

各学校の時間外業務時間の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均削減率
厚狭小学校	-6.1%	-12.6%	-16.7%	-15.2%	-63.4%	-8.8%	-27.4%	-13.2%	-6.8%	-6.6%	-17.0%	-97.5%	-24.3%
高千帆中学校	-14.8%	-22.2%	-12.8%	-3.3%	-1.6%	-9.6%	-18.7%	-22.8%	-15.4%	-21.7%	-17.7%	-84.1%	-20.4%
小野田中学校	0.5%	-12.2%	4.1%	-6.0%	-9.8%	-24.2%	-16.3%	-5.2%	-20.3%	-24.9%	-22.7%	-85.2%	-18.5%
竜王中学校	-1.0%	-4.3%	-4.7%	6.5%	8.4%	-0.8%	-13.9%	-26.7%	5.6%	-15.8%	6.5%	-73.0%	-9.4%
厚狭中学校	12.7%	-2.9%	1.6%	-30.2%	-4.7%	-8.3%	-15.2%	-25.3%	-5.1%	-26.8%	-12.8%	-66.1%	-15.3%
5校の平均	-1.8%	-10.8%	-5.7%	-9.6%	-14.2%	-10.3%	-18.3%	-18.6%	-8.4%	-19.2%	-12.7%	-81.2%	-17.6%
学校業務支援員総勤務時間数平均	0.0	70.4	75.2	54.0	4.8	67.4	80.6	76.8	70.4	68.0	72.0	64.0	58.6

※ 業務支援員は1日4時間、週5日の配置



令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 学校教育課 No 13 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	5	教育・文化・スポーツ	34	次世代の学校・地域創生の推進	1	学校・家庭・地域の連携の推進
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	コミュニティ・スクール推進事業		2-(1) 2-(3)	スクールアドバイザー配置事業		政策的
	コミュニティ・スクールの機能である「学校支援、学校運営、地域貢献」の充実を図るため、学校運営協議会での助言・支援や各種マネジメントを行うスクールアドバイザーを配置する。				対象	コミュニティ・スクール
				手段	学校運営協議会での助言・支援や各種マネジメントを行う。	
				意図	コミュニティ・スクールの充実	

事業期間	R1 年度	～	R4以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)	
	(県事業のため、 全額県費負担)		(県事業のため、 全額県費負担)		給料・諸手当	1,441千円	給料・諸手当	2,034千円
					社会保険料等	210千円	社会保険料等	538千円
合計						1,651千円		2,572千円
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源					1,651千円		2,572千円
合計						1,651千円		2,572千円
人工数	人件費				1.05	2,033千円		
総経費						3,684千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H29	H30	R1	R2
1	学校運営協議会への出席回数 (各学校年2回)	活動	36回	36回	36回	36回
			49回	60回	89回	
			136.0%	166.0%	247.0%	
2	コミュニティ・スクールだよりの発行回数(月平均2回)	活動	24回	24回	24回	24回
			55回	23回	33回	
			229.0%	95.8%	137.5%	
3						

成果	学校運営協議会、地域教育協議会、各学校のユニット型研修会に参加し、指導助言を行った。また、コミスクだよりを発行し、各学校・地域の取組を周知した。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	今後も社会教育課・公民館と連携して、地域とともにある学校づくりを進め、各学校の学校・地域連携カリキュラムの工夫・改善を図る。				
目標達成度	A	令和3年度に向けた方向性			
	成果	現状維持	コスト	現状維持	⑤
特記事項					

1 各学校の学校運営協議会・地域教育協議会への参加について

	小学校	中学校	合計
学校運営協議会	55回	34回	89回
地域教育協議会	17回	9回	26回
合計	72回	43回	115回

2 学校運営協議会・地域教育協議会での主な指導助言の内容について

- 「学校は地域のものである」という考え方を学校、保護者、地域で共通認識し、社会総がかりで子どもたちの育ちや学びに関わることが重要である。
- 学校と地域が連携した取組を多く実施しているが、「何のためにするのか」「何をめざしてするのか」をもう一度原点に戻って振り返るとともに、マンネリ化してきている活動については、昨年度の反省を生かして、工夫・改善しながら進化させてほしい。
- 「地域貢献活動」として地域の行事に参加する児童生徒に対して、自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育む等の体験をさせてほしい。
- 多様な教育活動や地域活動の場面において、地域住民と児童生徒が熟議する場の設定をお願いしたい。

3 各学校のユニット型研修への参加について

(学校の授業研修会に地域の方を招いて意見交換をする研修会)

	小学校	中学校	合計
ユニット型研修	18回	17回	35回

4 ユニット型研修での主な指導・助言の内容について

- 「ユニット型研修」に参加された地域の方に対して、学校の実情をしっかりと見ていただくとともに学校の課題を説明し、その課題解決に向けて学校と地域が協働して取り組んでいただきたい。地域と協力して若い人材の発掘をお願いしたい。
- 「学校・地域連携カリキュラム」の作成と地域・保護者との共有、見直しをお願いしたい。

5 コミュニティ・スクール便りの発行回数（別紙参照）

33号

2019年度 山陽小野田市CS (コミュニティ・スクール) だより

スクールアドバイザー 松浦 美彦

第7号 2019年6月10日発行 TEL 82-1188 (直通) FAX 84-8691

各校で1回目の「学校運営協議会」や「地域教育協議会」が開かれています。そのおおまかな内容をお知らせします。

高千帆中学校第1回学校運営協議会

日時 5月22日(木) 18:30~20:00
出席者 委員8人、校長・教頭2人、市教委2人

- 1 会長・校長あいさつ
- 2 自己紹介
- 3 学校運営協議会要項について
- 4 学校経営ビジョンについて(校長から)・・・承認
- 5 コミュニティ・スクール活動計画について
- 6 高千帆中学校区でめざす子ども像について(熟議)
急な提案だったので、意見が出にくかったが、各委員から、思いやり、明るく前向き、助け合う気持ち、感謝の心、素直な心、地域を愛する子ども、等の意見が出た。
- 7 事務局より連絡
- 8 ユニット型研修の案内
- 9 市教委から指導・助言
・柿並社会教育主事から
・松浦スクール・アドバイザーから
- 10 会長あいさつ

有帆小学校第1回地域教育協議会・学校運営協議会

日時 5月29日(水) 15:15~17:30

○地域教育協議会
出席者 地域21人、全教職員、市教委1人、佐々木エリアアドバイザー1

- 1 会長・校長あいさつ
- 2 佐々木エリアアドバイザーあいさつ
- 3 平成30年度活動報告・会計報告、監査報告
- 4 2019年度活動計画、予算案、新役員紹介
- 5 部会ごとによる話し合い
・知の教育部会 ・徳の教育部会、体の教育部会
(協議内容) ①自己紹介、②基本方針について
③年間の活動計画について

○学校運営協議会
出席者 委員12人、教職員5人、市教委1人、佐々木エリアアドバイザー

- 1 校長・会長あいさつ
- 2 平成30年度の取組について
- 3 2019年度の取組について
活動計画、学校経営方針、現状と課題
- 4 佐々木エリアアドバイザーからの説明
- 5 中学校区における「めざす子ども像」について

高千帆中学校「ユニット型研修会」について

高千帆中学校は、6月6日(木)7日(金)を「学校開放日」としてだれでも自由に授業参観ができる中、地域の方をお招きして「ユニット型研修会」が行われました。その概要をお知らせします。

○6月6日(木) 10:45~12:10
授業者 村上由依教諭(数学)3年3組(平方根)
参加者 地域5人、ユニットグループ教職員、佐々木エリアアドバイザー

○6月7日(金) 10:45~12:10
授業者 岡本佑治教諭(英語)1年2組(本時の主眼)一般動詞の疑問文の文型を理解し、相手に質問することができる。
参加者 地域3人、ユニットグループ教職員6人、教育実習生3人、市教委1人

※高千帆中学校の良いところは、地域の方をお待たせすることなく、授業終了後すぐに協議会に入れることです。

(協議会の流れ)

- ・授業者自評
- ・参加者自己紹介
- ・参加した全員から、授業の感想や意見が述べられました。

(地域の方の意見)

- ・先生の発音が綺麗でした。世界に羽ばたく人材を育てて欲しい。
- ・会話や発声に重点が置かれていて良かった。教師に情熱があるので、生徒もやる気が出ると思う。
- ・機器を使って、とてもリズムカルな授業で流れが良かった。無駄な時間が無く、生徒が積極的に活動していた。



2019年度 山陽小野田市CS (コミュニティ・スクール) だより

スクールアドバイザー 松浦 美彦

第18号 2019年7月9日発行 TEL 82-1188 (直通) FAX 84-8691

厚狭中学校「厚狭人ダイアログ」について(中学生と地域の大人が本音で語り合う時間)

7月8日(月)13時~16時まで 厚狭中学校と厚狭公民館の主催で、上記の会が行われました。「厚狭人ダイアログ」とは、「今の自分にとって大切なものは何か」「これから、どんな人間になりたいか」そんな自身の生き方を、人生の節目で考える授業です。普段余り考えたり言葉にしたりすることがない「自分自身」のことについて、地域の大人と中学生が語り合い、自身の人生観を育みます。2時間の授業の中で、本音を話し合うことによって、地域の大人と中学生が繋がり、違う世代の厚狭人が普段どんなことを考えて日々前向きに生活しているのかを知るきっかけにもなります。それではその概要をお知らせします。

参加者 厚狭中学校3年生127人、地域40人(大学生から様々な業種の方で、厚狭地域の方が半分、地域外の方が半分)、厚狭中教員、市教委4人、

○最終打合わせ(45分)

- ・主催者等の挨拶 ・参加者同士の自己紹介 ・授業の流れの紹介
- ・大人同士で対話の練習 ・「対話」で大切にしたいことを考える
- ・自己紹介シートの記入

○休憩・体育館へ移動、中学生入場

○ダイアログ本番(120分)

①挨拶・班づくりゲーム(1班に大人1人、中学生4人(男子2人、女子2人)の32班を作る。A4の紙に、生徒と地域の大人全員が名前を書く)

②1セット目【テーマ:自分のことを考える】

班内全員の自己紹介

- ・テーマ1:10分 小さな頃の夢は?
 - ・テーマ2:10分 これになら、何時間かけても飽きない
 - ・テーマ3:10分 得意なこと、不得意なこと
- ※ 班を移動(生徒はそのままで、大人が移動)

③2セット目【テーマ:自分が大切にしたい価値観】

班内全員の自己紹介

- ・テーマ4:10分 ゆずれないこと・習慣・考え
 - ・テーマ5:10分 都会になくて、田舎にある幸せって?
 - ・テーマ6:10分 幸せとは?
- ※ 班を移動(生徒はそのままで、大人が移動)

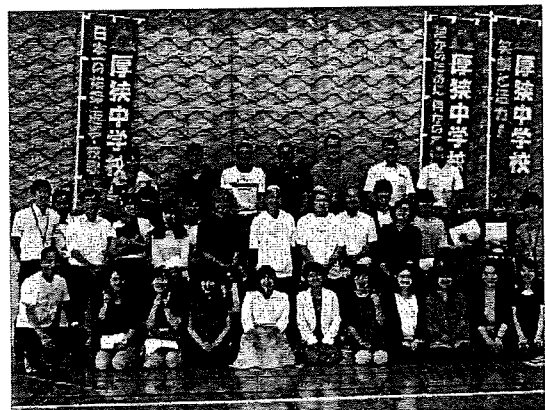
④3セット目【テーマ:どんな大人になりたい?】

班内全員の自己紹介

- ・テーマ7:10分 子どもと大人の違いって?
 - ・テーマ8:10分 こんな大人になりたい
 - ・テーマ9:10分 明日から頑張りたい一歩目
- ※ 中学生退場

○閉会

- ・江中公民館長あいさつ
とても良い雰囲気の中、充実した時間でした。
- ・宇都宮校長あいさつ
生徒にとっては、厚狭地区を振り返る良い機会になり、貴重で有意義な時間でした。
- ・記念撮影 ・解散



2019年度 山陽小野田市CS (コミュニティ・スクール) だより

スクールアドバイザー 松浦 美彦

第20号 2019年10月7日発行 TEL 82-1188 (直通) FAX 84-869

小野田中学校授業研究会 (ユニット型研修会) について

9月25日(水) 14時から授業研究会が行われました。その概要をお知らせします。

参加者 地域6人、全教職員、市教委1人、指導助言者2人

○授業研究 14時～14時50分

(A) (1年国語) 中明智幸教諭 (教材名) 蓬萊の玉の枝 (主眼) 根拠と理由を明らかにして自分の意見をもつことができる。

(B) (2年社会) 法山翔教諭 (教材名) 享保の改革と社会の変化 (主眼) 「米値の変動と対策」の資料から、幕府の財政難について読み取り、享保の改革の意義とそれによる百姓一揆・打ち壊しの背景をまとめる。

(C) (3年道徳) 関本 努教諭 (教材名) 一冊のノート (主眼) ノートを読むことによって、態度を改めた僕の言動について考えることを通して、相手の立場に立つことの難しさを理解することができる。

【研究主題】伝えたい思いを、自信をもって伝えられる生徒をめざして～生徒の言葉(意見)をつないで学びを深める授業づくりと、安心して伝えられる場づくりの工夫～

○研修職員会 15:00～16:30

(1) ワークショップ形式のグループ協議 (3グループに分かれて)

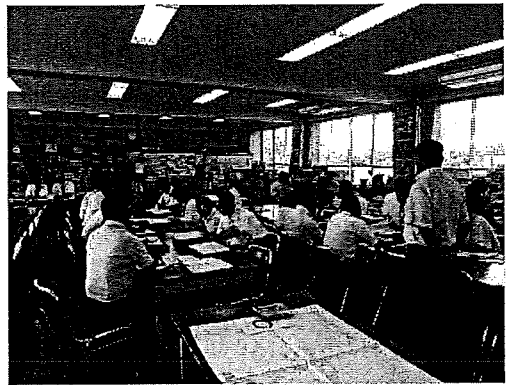
(2) 各グループによる発表 ※ここで地域の方は退席

(3) 指導・助言 山口大学教育学部附属山口中学校授業アドバイザー

・藤井教諭 (国語) から、・尾申教諭 (社会) から

・松浦スクールアドバイザーから

(4) 校長あいさつ



高千帆中学校のユニット型研修会について

10月3日(木)、4日(金) 10時45分から、学校開放日を兼ねて上記の会が行われました。その概要をお知らせします。

【研究主題】「主体的・対話的な深い学びの実現」～教育活動全体で取り組む、読解力・表現力の育成～

○10月3日(木) (社会・公民: 地方自治を学ぼう)

(3年5組) 植野健二教頭

参加者 地域2人、教員6人、市教委2人

【知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業】

○協議 11時40分～12時25分

授業終了後すぐに会議室にて、植野教頭と地域の方及び教員で授業についての意見交換や感想を述べ合いました。高千帆中学校は、地域の方のための研修会であり、参加しやすいように工夫されていますが、残念ながら地域の方の参加者が少ないのが現状です。

○10月4日(金) (国語・古典: 平家物語)

(2年3組) 若林勇二教諭

参加者 地域4人、教員4人、市教委1人

○協議 11時40分～12時15分

・授業者の自評

「地域の方の感想」

・生徒全員が真剣に取り組んでいたのが素晴らしい。古文に興味をもたせる授業であったと思う。

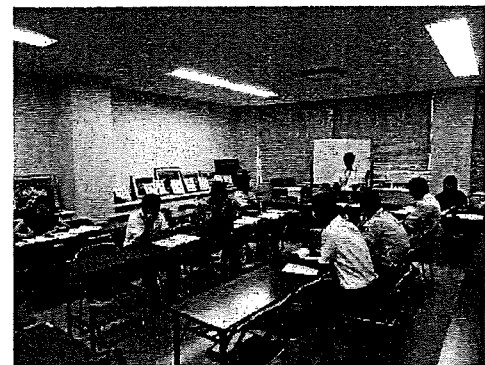
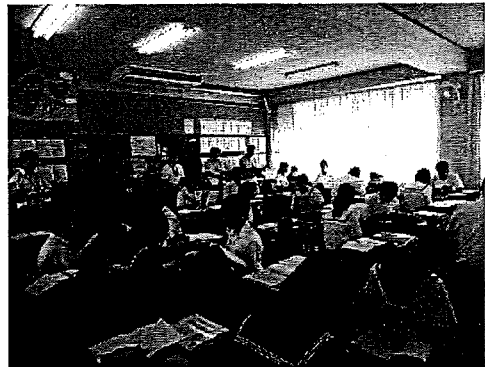
・教室の雰囲気がいよ。時代背景の説明がもっと欲しい。

・教師が生徒に寄り添っており、生徒の質問に丁寧に答えられていた。とても良い接し方だと思う。

・先生が穏やかで、指示が分かりやすい。しかし、子供がどれくらい理解しているのか少し疑問に思った。

○スクールアドバイザーからの指導・助言

○校長から



令和元年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 No 14 -

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	6	行財政運営・市民参画・市政情報の発信	39	健全な財政運営	2	自主財源の確保
	実施計画名		重点P	事務事業名		事業区分
事業概要	サポート寄附金促進事業			ふるさと山陽小野田応援事業		政策的
	<p>本市では、平成20年7月からサポート寄附金(ふるさと納税)を募り、自主財源の確保に努めている。平成28年度から更なる自主財源の確保及び地域経済の活性化等を目的として、寄附者に対して返礼品を送付するとともに、納付方法の簡素化(クレジット払い)を行い、寄附者の意欲増進や利便性の拡大に努めている。令和元年度においては、新たなポータルサイト(楽天)に加入し、PR露出を高めるとともに、首都圏等における展示会やイベントへの出展により、未認知層の開拓を図った。</p>					<p>対象 本市を応援してくれる方、返礼品(特産品)に興味のある方</p> <p>手段 ポータルサイトの活用。寄附者への返礼品送付。HP、チラシ等配布による制度周知</p> <p>意図 自主財源の確保及び地域経済の活性化</p>

事業期間	H28以前 年度 ~ R4以降 年度		予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H29決算額(千円)		H30決算額(千円)		R1決算額(千円)		R2予算額(千円)
	報償金	12,320千円	報償金	12,386千円	報償金	32,799千円	報償金
消耗品費	8千円	消耗品費	19千円	普通旅費	336千円	通信運搬費	765千円
印刷製本費	497千円	印刷製本費	1,040千円	消耗品費	351千円	手数料	18,678千円
通信運搬費	248千円	通信運搬費	298千円	印刷製本費	843千円		
手数料	388千円	手数料	379千円	通信運搬費	596千円		
				手数料	4,763千円		
				その他	754千円		
合計	13,461千円		14,122千円		40,442千円		65,463千円
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源	13,461千円		14,122千円		40,442千円	
合計	13,461千円		14,122千円		40,442千円		65,463千円
人工数 人件費	0.50 2,715千円	1.40	5,311千円	1.55	5,324千円		
総経費	16,176千円		19,433千円		45,766千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H29	H30	R1	R2
1 参加事業者数及び返礼品数	活動	-	-	-	50者、250商品
		22者、116商品	21者、148商品	43者、247商品	
2 サポート寄附注文件数	成果	550件	1,050件	2,600件	4,800件
		1,072件	1,243件	3,563件	
		194.9%	118.4%	137.0%	
3 サポート寄附金額	成果	40,000,000円	40,000,000円	80,000,000円	130,000,000円
		38,133,000円	36,217,000円	89,629,000円	
		95.3%	90.5%	112.0%	

成果	令和元年度は、返礼品の事業者数及び品目を増やす取組を行い、22事業者、99品目の増となった。また、新たなポータルサイト(楽天)に加入し、PR露出を高めた。これらの取組から、寄附注文件数及び寄附金受入額が大幅に伸びて、前年度比2倍超えとなった。				
令和3年度に向けた課題及び改善策	寄附金受入額の拡大を目指し、返礼品(売れ筋商品)の確保に努める。総務省において、募集に係る経費を年間寄附額の半分に抑えることが定められているため、このルールを順守する必要がある。返礼品調達に係る経費の見直しを検討する。				
目標達成度	A	令和3年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	拡大
特記事項	令和元年度PR出展のうち、広島マツダスタジアムでの「わがまち魅力発信隊」に係る事業費は、令和2年度から新たな事務事業名「わがまちの魅力発信事業」に移行する。				

ふるさと山陽小野田応援事業

1. 寄附人数と返礼品の発注状況について

①山陽小野田市サポート寄附年度別受入額（平成27年度～令和元年度）

年度	寄附人数	寄附金額（円）
H27	92	4,701,000
H28	564	22,557,000
H29	1,072	38,133,000
H30	1,243	36,217,000
R1	3,563	89,629,000

→月別の状況は「5. 令和元年度サポート寄附実績（月別）」のとおり

②返礼品の区別発注件数（令和元年度）

区分	寄附金額	商品の価格	発注件数	割合
Aコース	5,000円以上10,000円未満	1,500円相当	407	9.2%
Bコース	10,000円以上20,000円未満	3,000円相当	2,633	59.2%
Cコース	20,000円以上30,000円未満	6,000円相当	233	5.2%
Dコース	30,000円以上40,000円未満	9,000円相当	390	8.8%
Eコース	40,000円以上50,000円未満	12,000円相当	7	0.2%
Fコース	50,000円以上100,000円未満	15,000円相当	718	16.2%
Gコース	100,000円以上200,000円未満	30,000円相当	54	1.2%
Hコース	200,000円以上400,000円未満	60,000円相当	3	0.1%
合計			4,445	100.0%

③返礼品注文数ランキング（令和元年度）

順位	商品名	業者名	発注件数	割合	備考
1位	おせち料理・中華料理等	(株)ジー・テイスト	1,318	29.7%	おせち料理：605 中華料理他：713
2位	プラスチック製衣装ケース	天馬(株)	1,182	26.6%	
3位	革製品	革工房JACK	359	8.1%	全22商品
4位	とらふぐ刺身・お食事券	若新(株)	201	4.5%	とらふぐ刺身：156 お食事券：45
5位	瓶うに	中村うに商店	181	4.1%	
-	その他	その他38事業者	1,204	27.1%	
合計			4,445	100.0%	

2. 参加事業者及び返礼品の商品数(推移)

平成30年度 21 事業者 / 148 商品

令和 元年度 43 事業者 / 247 商品

3. ふるさと山陽小野田応援事業の啓発手法

①返礼品パンフレット制作数量及び主な配布先

平成30年度 2,500冊 / おいでませ山口館、山口県大阪事務所、山口東京理科大学、
おのだサンパーク、山口宇部空港 ほか

令和 元年度 1,500冊 / おいでませ山口館、市民病院、小野田高校同窓会、
おのだサンパーク、山口宇部空港 ほか

②職員通知(市外在住職員に対し、お願い文を发出)

平成30年度 2回

令和 元年度 1回

③寄附者へ「ふるさとだより」の郵送(2年間) ※リピーターの確保に向けて

平成30年度 1,454件

令和 元年度 1,567件

④PRイベント出展(広島マツダスタジアム、パシフィコ横浜)

・「わがまち魅力発信隊」を活用したPR

(広島マツダスタジアム:令和元年5月11日) → 入場者30,000人

・トラストバンク主催「ふるさとチョイス大感謝祭」へ出展

(パシフィコ横浜:令和元年11月16~17日) → 来場者11,600人

⑤広告付年賀はがきの作成

オリジナル年賀はがきを5万枚作成し、令和元年11月から市内郵便局で販売した

4. WEBサイトの活用

ふるさと納税ポータルサイト最大手である「ふるさとチョイス」に加えて、令和元年6月から、「楽天ふるさと納税」に新たに加入。(参加自治体数:969自治体(2020/8/7時点)、ふるさとチョイスに次ぐ参加自治体数)

5. 令和元年度 サポート寄附実績(月別)

月	人数	対前年比(人)	金額(円)	楽天		ふるさとチョイス 他		対前年比(円)	対前年比(%)
				人数	金額(円)	人数	金額(円)		
4月	53	19	1,170,000	0	0	53	1,170,000	-20,000	98.3%
5月	77	27	2,595,000	0	0	77	2,595,000	975,000	160.2%
6月	117	69	2,185,000	51	895,000	66	1,290,000	925,000	173.4%
7月	97	49	2,010,000	47	710,000	50	1,300,000	695,000	152.9%
8月	128	77	3,225,000	60	980,000	68	2,245,000	1,945,000	252.0%
9月	278	174	7,685,000	193	4,945,000	85	2,740,000	4,245,000	223.4%
10月	359	216	11,670,000	205	6,045,000	154	5,625,000	6,280,000	216.5%
11月	528	322	13,465,000	309	7,625,000	219	5,840,000	7,935,000	243.5%
12月	1,552	1,095	39,285,000	968	25,940,000	584	13,345,000	26,363,000	304.0%
1月	103	80	1,550,000	63	805,000	40	745,000	1,180,000	418.9%
2月	101	70	1,845,000	51	610,000	50	1,235,000	1,145,000	263.6%
3月	170	122	2,944,000	104	1,615,000	66	1,329,000	1,744,000	245.3%
合計	3,563	2,320	89,629,000	2,051	50,170,000	1,512	39,459,000	53,412,000	
							前年比	247.5%	

【参考】

平成30年度サポート寄附実績(月別)

月	人数	金額(円)
4月	34	1,190,000
5月	50	1,620,000
6月	48	1,260,000
7月	48	1,315,000
8月	51	1,280,000
9月	104	3,440,000
10月	143	5,390,000
11月	206	5,530,000
12月	457	12,922,000
1月	23	370,000
2月	31	700,000
3月	48	1,200,000
合計	1,243	36,217,000

平成29年度サポート寄附実績(月別)

月	人数	金額(円)
4月	38	1,550,000
5月	56	1,695,000
6月	49	1,850,000
7月	56	2,092,000
8月	42	1,960,000
9月	73	2,560,000
10月	102	4,030,000
11月	152	4,836,000
12月	429	15,150,000
1月	26	815,000
2月	26	855,000
3月	23	740,000
合計	1,072	38,133,000

平成28年度サポート寄附実績(月別)

月	人数	金額(円)
4月	0	0
5月	2	300,000
6月	36	862,000
7月	23	870,000
8月	28	800,000
9月	32	1,010,000
10月	56	3,195,000
11月	112	4,845,000
12月	238	9,365,000
1月	12	400,000
2月	11	500,000
3月	14	410,000
合計	564	22,557,000

※6月からふるさと山陽小野田応援事業開始